

教育研究上の基礎的な情報・修学上の情報等

■建学の理念・精神

1. 建学の精神

本学は、孔子の教えに基づく儒学を建学の精神としており、そのうえで「行義以達其道（義を行いつつその道に達す）」を学是とし、「大和のこころ」を養うことを学生の本分としている。すなわち義を行ない道理にかなった正しい道を歩むこと、そして真理に基づき平和と繁栄の道を模索することこそが本学の理念であり、この義と和こそが本学を支える基本精神となっている。

2. 使命と目的

大学学則第2条にあるように、本学は建学の精神に則り、世界の平和と人類の福祉を基調とする経済学ならびに社会福祉学を研究・教育し、知的、道徳的および応用的能力を開発し、国際社会・情報化社会・福祉社会に貢献しうる人材の育成を目的としている。

そのうえで、ディプロマ・ポリシーに明記しているように、次のことを全学の教育の基本方針としている。

- ①建学の精神である儒学を理解し、義を行わんとする強い意欲と寛容の精神をもつこと。
- ②教養として文化・社会・自然等に関する知識や社会人として必要な語学・ICT（情報コミュニケーション技術）など汎用的な技術と能力を身につけ、社会人としての態度・倫理観・社会的コミュニケーション能力をもつこと。
- ③地域社会への貢献や異文化の理解と国際交流に努める能力と意志をもつこと。
- ④これらの知識・技能・態度等を総合的に動員できる応用力・創造力をもつと同時に、生涯を通して学習に励み教養を深めることができるようになっていること。

3. 大学の個性と特色

本学では、初年次教育、GPA(Grade Point Average)、学習ポートフォリオ、学生記録等、教育制度の整備を進めているが、そのなかでも特色と言えるのは、演習（ゼミナール）を中心とする少人数教育である。両学部とも全学年で学生はゼミに所属し、経済情報学部では平均10人程度、福祉環境学部においても平均6～7人程度の学生数でゼミが運営されている。

正課教育以外の課外活動においては、人間力あるいは社会人としての基礎力育成のための活動として、学生が目的を持って自己実現を図ることを目指すさまざまな活動を支援している。それらは正課教育と相まって、学生の自立心を養い、問題解決能力とコミュニケーション能力を高めることを目指したものである。

また、本学は、教育・研究活動と同時に地域への社会貢献を重要な大学の使命としており、地域の中で地域に貢献し地域と共に生きる大学を目指し、地域のイベント（七夕祭り等）、行政等の依頼による調査事業などを実施し、地域への公開講座、高大連携などを積極的に行なっている。

更に、本学は留学生教育と国際交流を重視しており、時代が要請する大学の国際化を進めると同時に、地域の国際化を図る拠点としての役割を担っている。本学は儒学を建学の精神とすることからアジアの諸大学との交流が深く、中国語と韓国語を専門とする教員の比重も高い。留学生も中国・韓国等、アジア諸国から多く留学してきており、大学の国際化が進んでいる。また留学生は、地域の各種イベントへの参加、小学校など教育機関の訪問等、地域での国際交流に欠かせない役割を果たしている。

■教育研究上の基本組織

①学部構成と名称

大学等	学部	学科
東日本国際大学	経済情報学部	経済情報学科
	福祉環境学部	社会福祉学科
	留学生別科	

②学部の特色

本学では、初年次教育、GPA、学習ポートフォリオ、学生記録等、教育制度の整備を進めているが、きたが、そのなかでも特色と言えるのは、演習（ゼミナール）を中心とする少人数教育である。両学部とも全学年で学生はゼミに所属し、経済情報学部では平均10人程度、福祉環境学部においても平均6～7人程度の学生数でゼミが運営されている。

正課教育以外の課外活動においては、人間力あるいは社会人としての基礎力育成のための活動として、学生が目的を持って自己実現を図ることを目指すさまざまな活動を支援している。それらは正課教育と相まって、学生の自立心を養い、問題解決能力とコミュニケーション能力を高めることを目指したものである。また、本学は、教育・研究活動と同時に地域への社会貢献を重要な大学の使命としており、地域の中で地域に貢献し地域と共に生きる大学を目指している。地域のイベント、行政等の依頼による調査事業などを実施し、開講座、高大連携などを積極的に行なっている。更に、本学は留学生教育と国際交流を重視しており、時代が要請する大学の国際化を進めると同時に、地域の国際化を図る拠点としての役割を担っている。本学は儒学を建学の精神とすることからアジアからの留学生が多く、大学の国際化が進んでいる。また留学生は、地域の各種イベントへの参加、小学校など教育機関の訪問等、地域での国際交流に欠かせない役割を果たしている。

■教員組織、教員数、教員の業績等

①教員数、専任教員一人あたりの学生数

(H27.5.1 現在)

学部等	専任教員数(A)		非常勤教員数(B)		専任比率 (A)/(A)+(B)	学生数(C)	専任教員一人あ たりの学生数 (C)/(A)
	男	女	男	女			
経済情報学部	23	4	11	1	69%	425	15
福祉環境学部	12	5	5	4	65%	121	7
東洋思想研究所	2	0	0	0			
留学生別科	0	1	5	6	8%	126	126

②専任教員の職位、専任教員と非常勤教員の比率

(H27.5.1 現在)

学 部	学科等	専 任 教 員					非常勤 教 員	比 率 専任:非常勤
		教授	准教授	講師	助手	計		
経済情報学部	経済情報学科	18	6	2	1	27	12	2.3 : 1
福祉環境学部	社会福祉学科	11	5		1	17	9	1.9 : 1
	東洋思想研究所	1	1	0	0	2	0	—
	留学生別科	0	1	0	0	1	11	1 : 11
計		30	13	2	2	47	32	1.5 : 1

③専任教員の年齢構成

(H27.5.1 現在)

学 部	学科等	30歳以下	40歳以下	50歳以下	60歳以下	61歳以上	計
経済情報学部	経済情報学科	0	2	7	10	8	27
福祉環境学部	社会福祉学科	0	4	3	1	9	17
	東洋思想研究所	0	1	1	0	0	2
	留学生別科	0	0	0	1	0	1
計		0	7	11	12	17	47

④教員が有する学位及び業績

【経済情報学部】

(H27.5.1 現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	担当科目
福迫 昌之	教授	修士(社会学)	副学長・ 学部長	社会学 関係	専門演習Ⅱ、卒業研究、情報社会と倫理、コミュニケーション 地域再生論、情報メディア、地域経済特別講義、復興学
比留間 進	教授	学 士 (文 学)	副学長	商学・経済 学関係	キャリアデザイン、自己啓発とキャリア形成、論語幸福論 キャリアガイダンス、職業意識の形成とキャリアプランニング
三重野 徹	教授	学 士 (理 学)	学科長	商学・経済 学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、教養演習、VBプログラミング A・B ビジネスマネジメント、経営戦略、経営分析、経営情 報、経営組織
二見 順	教授	博 士 (工 学)	教務部長	社会・自然 科学関係	キャリアデザイン、コンピュータ演習ⅠA・B、コンピュータ演 習ⅡA、教養演習、専門演習Ⅰ、公務員試験対策講座
浅井 義彦	教授	博 士 (工 学)	学生部長	電気通信 工学関係	専門演習Ⅱ、卒業研究、プログラミングA・B、情報処理入門 専門演習Ⅰ、専門基礎演習、宇宙と先端技術、教職実践演 習
北見 正伸	教授	博 士 (理 学)	図書館長	生物関係	専門演習Ⅰ、専門基礎演習、自然の理解、地域再生論 セラピー評価法と演習、数的処理、環境論、復興学
山田 紀浩	教授	博士(行政 学)	別科長	法学・政治 学関係	韓国語ⅠA・B、アジア事情(中国・韓国)、異文化理解、復興 学 特別研究演習A'(韓国語A)、韓国語ⅡB、市民社会論
戸田 聖子	教授	修 士 (文 学)		分学関係	教養演習、中国語ⅠA・B、日本語ⅠA・B

水田 健	教授	修士(経済学)		商学・経済学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、経済原論A・B、経済入門、国際経済、専門基礎演習、文章理解Ⅰ、地域再生論、経済の基礎
秋葉 明	教授	学士(経営学)		商学・経済学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、キャリアデザイン、専門基礎演習 交通経済、日本経済、経済政策、余暇産業
倉田 貢	教授	博士(哲学)		哲学関係	教養演習、専門基礎演習、英語ⅠA・B、文章理解Ⅰ 英語ⅡB、人間の思想
田村 立波	教授	修士(文学)		文学関係	教養演習、専門演習Ⅰ、アジア事情(中国・韓国)、日本事情、異文化交流、異文化理解、中国語ⅡB、日本文化の基礎
皆川 國生	教授	修士(経済学)		商学・経済学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、平和経済A・B、教養演習、経営史、公務員試験対策講座、経済史
大槻 雅彦	教授	学士(法学)		商学・経済学関係	専門演習Ⅱ、卒業研究、キャリアデザイン、専門基礎演習 金融、経済情報、環境経済、統計
船生 敏夫	教授	修士(商学)	キャリアセンター長	商学・経済学関係	専門演習Ⅱ、卒業研究、教養演習、専門基礎演習 ビジネスガイダンス、経営入門、マーケティング
上遠野 和村	教授	学士(法学)		法学・政治学関係	教養演習、行政法、地域経済、地方財政、財政
山内 芳文	教授	博士(教育学)		教育学関係	教育原理、指導要領演習A・B、教育制度
中野 信子	教授	博士(医学)		医学関係	脳科学基礎
大関 貴久	准教授	学士(体育学)	柔道部長兼監督	体育学関係	スポーツⅠ、スポーツボランティア、スポーツマッサージ スポーツ科学演習B、スポーツテピング
竹内 茂	准教授	学士(工学)		工学 その他関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、専門基礎演習、インターンシップ、システム分析・設計、特別研究演習A'(Excel基礎)、コンピュータ演習ⅡB、インターンシップ、シミュレーション、経営情報処理
三浦 秀樹	准教授	修士(経済学)		商学・経済学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、専門基礎演習、簿記Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習、簿記検定2・3級、原価計算
矢邊 均	准教授	修士(法学)		法学・政治学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、専門基礎演習、文章理解Ⅰ 公務員試験対策講座、民商法、教職実践演習、文章理解Ⅱ 法と憲法、政治学
ノーマン・リー・ダウト	准教授	修士(経営学)		商学・経済学関係	英語ⅠA・B、英語Ⅱ、留学生のための英語A・B
松本 亜沙子	准教授	博士(理学)		自然科学関係	専門演習Ⅱ、卒業研究、専門基礎演習、特別研究演習A'(小論)、情報処理資格講座Ⅰ(ITパスポート)、海洋環境学
城山 陽宣	講師	修士(文学)		哲学関係	教養演習、論語を学ぶ、文章理解Ⅰ・Ⅱ、日本語ⅡA・B 日本文化の基礎、論語素読
岩村 聡	講師	修士(体育学)		体育学関係	専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、教養演習、スポーツサービス産業論、スポーツビジネスにおけるキャリアデザイン論、スポーツ経営学、地域スポーツマネジメント、スポーツマーケティング論・演習

緑川 清美	助手			商学・経済学関係	
-------	----	--	--	----------	--

【福祉環境学部】

(H27.5.1 現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	担当科目
吉村 作治	教授	博士(工学)	学長	史学関係	基礎演習ⅡA・B、エジプト文明論、地域活性論、比較文明論
宮本 文雄	教授	修士(教育学)	学部長	社会学関係(社会事業関係を含む)	キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、基礎演習ⅠA・B、福祉環境論 少子高齢化社会概論、特別研究演習ⅠA・B
本多 創史	教授	博士(学術)	学科長	社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅡA・B、現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ 専門演習(外書講読含む)Ⅰ・Ⅱ、権利擁護と成年後見制度、グローバル化と人的移動、市民社会論 社会福祉の基礎理念と背景、社会福祉関係法論、復興学
伊尻 正一	教授	修士(学校教育学)	教育実習センター長	教育学関係	キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、教育実習、教育心理学、教職実践演習、専門演習(外書講読含む)Ⅰ・Ⅱ、心理学理論と心理的支援、家族心理、公務員試験対策講座、小児心理アセスメント 学校カウンセリング
金子 義宏	嘱託教授	博士(医学)	保健管理センター長	医学	精神医学Ⅰ・Ⅱ、精神保健学Ⅰ・Ⅱ
今野 久寿	教授	学士(社会福祉学)	学生副部長	社会学関係(社会事業関係を含む)	専門演習(外書講読含む)Ⅰ・Ⅱ、福祉環境論 相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、相談援助の理論と方法ⅠA・B、相談援助の理論と方法ⅡA、福祉行財政と福祉計画Ⅰ・Ⅱ
千葉 陽子	教授	学士(体育学)		体育学関係	基礎演習ⅠA・B、専門演習(外書講読含む)Ⅰ・Ⅱ、スポーツⅠA、スポーツボランティア、スポーツ科学演習B、障害者スポーツ論A、生涯スポーツ論
柳沢 民雄	教授	修士(社会学)		文学関係	英語ⅠA・B、基礎演習ⅠA・B、基礎演習ⅡA・B
八巻 幹夫	教授	修士(社会福祉学)		社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅡA・B、専門演習(外書講読含む)Ⅰ・Ⅱ 学校ソーシャルワーク、精神科リハビリテーション学Ⅰ・Ⅱ 国家試験対策講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、精神保健福祉援助演習 精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助実習、精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ 地域精神医療
菊池 義昭	教授	修士(地域政策)		社会学関係(社会事業関係を含む)	福祉環境論、更生保護制度、国家試験対策講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ・Ⅱ 相談援助演習Ⅰ・Ⅲ、相談援助実習、相談援助実習指導

佐々木 達雄	教授	修士(社会学)		社会学関係 (社会事業 関係を含む)	コミュニケーション I、ストレスマネジメント論 高齢者に対する支援と介護保険制度 I、高齢者に対する 支援と介護福祉レクリエーション、保険制度 II A・B、社会 福祉の基礎
坂田 勝彦	准教授	博士(社会学)	教務副部 長	社会学関係 (社会事業 関係を含む)	キャリア演習 I・II、基礎演習 I A・B、基礎演習 II B 専門演習(外書講読含む) I・II、生命倫理学 I・II 家族関係論 I・II、社会理論と社会システム、ターミナル ケア、グローバル化と人的移動、社会調査の基礎、復興学
清水 茂徳	准教授	修士(社会学)		社会学関係 (社会事業 関係を含む)	キャリア演習 I・II、基礎演習 I A・B 専門演習(外書講読含む) I・II、精神保健福祉援助演習 精神保健福祉援助技術総論 I・II、精神保健福祉援助実 習、精神保健福祉援助実習指導、セクシュアルヘルス 精神保健福祉に関する制度とサービス II
今橋 みづほ	准教授	修士(文学)		社会学関係 (社会事業 関係を含む)	キャリア演習 I・II、専門演習(外書講読含む) I・II 医療ソーシャルワーク論、相談援助演習 I・II・III 精神保健福祉に関する制度とサービス I 相談援助実習、相談援助実習指導 保健医療サービス、ケアマネジメント論、チームケア論
田中 みわ子	准教授	修士(文学)		社会学関係 (社会事業 関係を含む)	基礎演習 I A・B、基礎演習 II A・B 専門演習(外書講読含む) I・II、就労支援サービス 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I・II コミュニケーション II、障害原理論、発達障害児療育論
新田 さやか	准教授	修士(人間 関係学)		社会学関係 (社会事業 関係を含む)	キャリア演習 I・II、専門演習(外書講読含む) I・II 地域福祉の理論と方法 I・II、福祉まちづくり論 相談援助演習 I・II・III、相談援助実習、相談援助実習指 導、グローバル化と人的移動、相談援助の理論と方法 II B
木村 志麻	助手	学士(語 学)		社会学関係 (社会事業 関係を含む)	

【東洋思想研究所】

(H27.5.1 現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	担当科目
先崎 彰容	教授	博士(文学)		哲学関係	人間力の育成、本学にみる東洋思想
関沢 和泉	准教授	博士(言語 学)	電算室長	哲学関係	情報処理演習 I A・B、本学にみる東洋思想

■入学、卒業、修了及び進路の状況

①東日本国際大学のアドミッション・ポリシー

1. 本学の建学の精神を理解し、倫理観の高揚を図る意欲のある人
2. 社会人としての基礎能力を身につけ、その上に専門知識の習得を見指す人
3. 勉学およびスポーツ・文化・社会活動等を通して豊かな人間性を発展させたい人
4. 習得した知識や能力を活かし地域社会・国際社会に貢献する強い意欲を持っている人

②経済経営学部のアドミッション・ポリシー

1. 経済情報の幅広い分野に興味を持っている人
2. 将来の社会人・経済人として必要不可欠なICTの知識とスキルを身につけたい人
3. 地域経済や国際経済に関心を持ち、その発展に貢献したいという強い意欲を持っている人
4. 社会に必要な基礎能力と自らの得意とする分野の専門知識の両方を高めたい人

③健康福祉学部アドミッション・ポリシー

1. 福祉の幅広い分野に興味を持っている人
2. 社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験取得を目指す人
3. 地域福祉の向上に貢献したいという強い意欲をもっている人
4. 福祉国家・福祉社会の発展のために、福祉の知識を広く社会で活かしたい人

④入学者数、専任教員一人あたりの学生数、定員充足率

(H27.5.1 現在)

学 部	学 科	入学者の状況		在校生の状況 (1～4年生)		専任教員 一人当たり の学生数	収容定員 充足率
		定員	入学者数	定員	在学生数		
経済情報学部	経済情報 学科	120	146	500	425	15.7	85.0%
福祉環境学部	社会福祉 学科	80	26	320	121	7.1	37.8%
計		200	172	820	546	12.4	66.6%

【別記】

学 部	学 科	在校生の状況		専任教員 一人当たり の学生数	収容定員 充足率
		定員	在学生数		
	留学生別科		80	126	157.5%

⑤社会人受入数、留学生数、留年者数

(H27.5.1 現在)

学 部	学 科	社会人 学生数	留学生数	留年者数
経済情報学部	経済情報学科	1	95	7
福祉環境学部	社会福祉学科	0	2	4
計		1	97	11

【別記】

学 部	学 科	社会人 学生数	留学生数	留年者数
	留学生別科	0	126	53

⑥入学生の推移

(H27.5.1 現在)

学 部	学 科	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
経済情報学部	経済情報学科	113	104	146
福祉環境学部	社会福祉学科	42	30	26
計		155	134	172

【別記】

学 部	学 科	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
	留学生別科	93	75	48

⑦退学者数、除籍者数、中退率、海外派遣 (平成 26 年度実績)

(H27.5.1 現在)

学 部	学 科	退学者数	除籍者数	中退率	海外派遣 学生数
経済情報学部	経済情報学科	18	6	6.0%	3
福祉環境学部	社会福祉学科	10	0	6.0%	0
計		28	6	6.0%	3

【別記】

学 部	学 科		退学者数	除籍者数	中退率	海外派遣 学生数
	留学生別科	春学期	4	0	4.0%	0
		秋学期	4	2	4.5%	0

⑧卒業・修了者数、学位授与数、進学者数、就職者数 (平成 26 年度実績)

(H27.5.1 現在)

学 部	学 科	卒業・修了者数	学 位 授与数	進学者数	就職者数
経済情報学部	経済情報学科	64	64	1	61
福祉環境学部	社会福祉学科	48	48	0	45
計		112	112	1	106

【別記】

学 部	学 科	卒業・修了者数	学 位 授与数	進学者数	就職者数
	留学生別科	46	—	46	0

⑦進路状況

学 部	学 科	卒業生数	就職希望者数	その他	就職者数	就職率
経済情報学部	経済情報学科	64	61	3	61	100%
福祉環境学部	社会福祉学科	48	45	3	45	100%

⑧主な進路先

http://shk.ac.jp/career/Job_data_date.html

■授業科目、授業の方法・内容・計画

①全学共通の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 学生は全員、少人数のゼミ（演習）に全学年で所属し、担当教員は、初年次教育、基礎的専門教育、専門・展開教育、卒業研究指導、就職活動支援などを通して、きめ細かな指導と対応にあたります。
2. 本学の建学の精神である儒学に関する知識・理解を深めるための科目を設定しています。
3. 語学や情報処理技術、国語力など社会人としての基礎力である汎用的コミュニケーションスキルに関する科目、文化、社会、自然科学、スポーツ等に関する一般教養科目を設けています。
4. キャリア形成・資格取得に関する科目を設け、学生が当初より自らのキャリアデザインを描くことができるようにしています。

②経済情報学部の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教養科目と専門科目等を楔形に配置し、教養、専門基礎、専門等の科目の内容が相互に有機的に結びつけられるようにしています。
2. 教養科目として、地域社会および国際社会で活躍できる人材の育成のために外国語、国語力・論述力の育成をはかる科目、学部の特性を考慮したユニークな科目を設定しています。
3. 専門基礎科目として、経済および情報に関する必修科目を中心にどのコースにおいても必要な経済情報の基礎的な知識と技術を習得できるようにします。
4. 専門科目として、各コースに特有の専門性の高い科目を配置し、専門的な知識と能力を修得できるようにします。
5. 展開科目として、専門科目よりもさらに高度な科目、あるいは、高度な応用科目を開講しています。

③福祉環境学部の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 総合科目は、基礎的なコミュニケーションスキルや学習スキルを身につける科目のほか、視野を広げ人間洞察力を高めることにつながる科目で構成されています。
2. 専門基礎科目では、福祉援助を必要とする人々について学ぶとともに、社会福祉をめぐる基礎的知

識・制度・思想・倫理などの理解を深めていきます。

3. 専門科目では、相談援助に必要な基礎的知識・技術・価値・倫理について学び、各自の進路に応じてこれらの知識・技術・価値・倫理を身につけていくことを目指します。
4. 専門科目の実習教育では、地域の福祉施設・機関との契約・連携のもと、相談援助活動の実際について体系的に学ぶとともに、実習先の選択は、将来の進路選択につながるように配慮しています。
5. 各学年の少人数ゼミでは、4年間を通して、主体的に学ぶ態度、積極的に発言する力及び討論を通して他者の考えを聞く力、興味ある課題を発見する力、課題を専門的に探求する力を育成します。
6. 国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士を目指す学生を対象とした受験セミナーを開講しています。

<学 則> http://www.shk-ac.jp/info_profile_rule.html

<カリキュラム表>

経済情報学部 http://www.shk-ac.jp/department_economic_curriculum.html

福祉環境学部 http://www.shk-ac.jp/department_welfare_curriculum.html

④講義概要（シラバス）

経済情報学部シラバス

教養科目 http://shk-ac.jp/department_economic_curriculum.html#section01

専門基礎科目 http://shk-ac.jp/department_economic_curriculum.html#section02

専門科目 http://shk-ac.jp/department_economic_curriculum.html#section03

展開科目 http://shk-ac.jp/department_economic_curriculum.html#section04

資格・教職課程等に関する科目 http://shk-ac.jp/department_economic_curriculum.html#section05

福祉環境学部のシラバス

教養科目 http://shk-ac.jp/department_welfare_curriculum.html#section01

専門基礎科目 http://shk-ac.jp/department_welfare_curriculum.html#section02

専門科目 http://shk-ac.jp/department_welfare_curriculum.html#section03

自由選択科目 http://shk-ac.jp/department_welfare_curriculum.html#section04

⑤履修モデル

学部・研究科等	修業 年限	必要修得 単位数	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な 学位
			科目区分名	必修	選択必修	合計	
経済情報学部	4年	124単位	教養	12単位	4単位 以上	30単位 以上	学士 (経済学)
			専門基礎	14単位	—	20単位 以上	
			専門	12単位	—	45単位 以上	
			展開	6単位	—	6単位 以上	
福祉環境学部	4年	124単位	総合	14単位	6単位	24単位 以上	学士 (社会福祉 学)・ (精神保健福 祉学)
			専門基礎	24単位	16単位	60単位 以上	
			専門	16単位	4単位	40単位 以上	

⑥学年暦 http://shk-ac.jp/college_life_schedule.html

■卒業・修了の要件及び取得学位等

①全学共通のディプロマ・ポリシー

1. 建学の精神である儒学を理科し、義を行わんとする強い意欲と寛容の精神をもつこと。
2. 教養として文化・社会・自然等に関する知識や社会人として必要な語学・I T C（情報コミュニケーション技術）など汎用的な技術と能力を身につけ、社会人としての態度・倫理観・社会的コミュニケーション能力をもつこと。
3. 地域社会への貢献や異文化の理解と国際交流に努める能力と意志をもつこと。
4. これらの知識・技能・態度等を総合的に動員できる応用力・創造力をもつと同時に、生涯を通じて学習に励み教養を深めることができるようになっていること。

②経済情報学部のディプロマ・ポリシー

1. 社会や企業で活躍するために必要な国語力、基礎的な外国語力、I T C駆動力を身につけ、コミュニケーションスキルが備わっていること。
2. 情報社会と国際経済情勢との関連や、経済情報に関する専門知識・理論・技能・倫理を理解し、応用することができること。
3. 授業およびスポーツ、ボランティア活動などの課外活動などの課外科目を通して自己規律とチームワークのもとで協働できる実践的能力を身につけること。
4. 国際経済ならびに地域経済の発展へ寄与し、社会人としての義務と責任を果たす意思と能力を備えていること。

③福祉環境学部のディプロマ・ポリシー

1. 社会福祉に関心をよせる社会人としての素養を身につけ、生涯を通して学習に励み教養を深めることができるようになっていること。
2. 社会や社会福祉領域の職場で活躍するために必要な日本語力、基礎的な外国語力等を身につけ、コミュニケーションスキルが備わっていること。
3. 国際比較の視点から各国の福祉環境（制度、施策、福祉文化）に興味をもち、あわせて、異文化の理解と国際交流に努めようとする態度が備わっていること。
4. スポーツ、サービスマーケティング、ボランティア活動等を通じて自己規律とチームワークのもとで協働できる能力を身につけていること。
5. 福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、その他）に必要とされる価値・倫理・知識・技術について理解するとともに、地域の福祉的課題に主体的に取り組む能力を身につけていること。

④取得可能な免許及び資格について

経済情報学部 http://www.shk-ac.jp/department_economic_qualification.html

福祉環境学部 http://www.shk-ac.jp/department_welfare_qualification.html

⑤学位授与・授与率

学部	平成 23 年度入学者数	平成 26 年度学位授与数	授与率
経済情報学部	118	64	54%
福祉環境学部	62	48	77%

■学生生活及び就職支援について

①学生支援センター

http://www.shk-ac.jp/college_life_support_procedure.html

②キャリアセンター

http://www.shk-ac.jp/career_support_support.html

③保健管理センター

保健管理センターは、学生・教職員の健康をサポートするため、定期及び臨時の身体測定、健康診断を定期的実施している。大学内でのケガや急な体調不良などについては、看護師の資格をもつ職員が迅速に対応している。

また、身体的な健康だけではなく、心の悩み、身体、対人関係、家庭、異性関係、性格、性の問題等、学生生活をよりよく過ごすための、カウンセリングに精通した職員が相談に応じている。

詳細：http://www.shk-ac.jp/college_life_support_health.html

■その他の教育研究上の情報

①海外の諸学校との協定状況

・曲阜師範大学（中国）・曲阜師範学校（中国）・山東大学（中国）・安徽大学（中国）・香港孔教学院（中国）・中国政法大学（中国）・大連民族学院（中国）・撫順師範高等専科学校（中国）・瀋陽体育大学（中国）・牡丹江大学（中国）・和春技術学院（台湾）・開南大学（台湾）・成均館大学校（韓国）・金浦大学（韓国）・世京大学（韓国）・カリフォルニア州立総合技術大学（アメリカ）・ハワイ州カウアイ・コミュニティカレッジ（アメリカ）・ファースト・グローバル・コミュニティ・カレッジ（タイ）

②社会貢献活動

本学は、「地域連携」を大学の理念とし、「地域に信頼され愛される大学」、「地域に開かれ貢献できる大学」、「『地域経済』『地域福祉』に関するシンクタンクとなりうる大学」を目指している。

1 「高大連携プログラム」

「高大連携プログラム」（大学と高等学校の間で協定書を締結して長期的な相互交流）は、高等学校サイドの勉学動機の不足、あるいは安易な資格取得志向などの悩みと大学サイドの優秀な学生の確保や高い勉学動機を持つ学生の確保などの悩みをも同時に解決するためのもので、その実施状況は下表のとおりである。

対象高等学校名	内容
県立・平商業高等学校 本学附属昌平高等学校	－高校生が本学の授業を大学生に混ざって履修するという形態 －当該生徒が本学に進学した際には、本学の単位（事前修得単位）として認定
県立・いわき総合高等学校	－教員が高校に出向く形態 －単位は高校側でのみ認定

2 「市民を対象としたプログラム」

「市民を対象としたプログラム」は次頁のとおりである。

「市民対象プログラム」の概要

プログラム名	内容
科目等履修生制度	単位認定を伴う社会人のための生涯学習の場（単位認定あり）。
市民開放授業	単位認定を伴わずに、市民に特定の講座を開放する（無料、単位認定なし）。
ふれあい出前講座	高校生を含む市民を対象に、求めに応じて本学教員が出向いて講義を行うもの（無料、単位認定なし）。
論語素読教室	毎週土曜日に学内の大成殿において一般市民と本学教員も関与した素読会。学生も参加できる。
いわきヒューマンカレッジ	市が主催する市民大学。本学は経済・福祉に関する内容を担当。

昌平図書館開放	市民開放として、平日は午後6時、土曜日は午後1時まで開館。 現在、いわき市内図書館（大学、高専及び市立）間ネットワーク 利用が可能となっている。
---------	--

③地域・産学官との連携

毎年いわき市「大学等と地域の連携したまちづくり推進事業」を実施し、市から委託された各種調査・研究事業を実施している。近年の実績としては、

1. 平成 23 年度「いわき市物産品および観光商品の高度化と体制整備による風評被害克服・地域活性化のための調査・実証実験事業」
2. 平成 24～25 年度「大型商業施設と地元産業（商業・農林水産業）に関する研究」、平成 25 年度「介護予防事業の効果検証と今後の方策について」、「授産製品の販路拡大と新たな商品・サービス開発」
3. 平成 26 年度「公園施設などを用いた興行によるシティーセールス、交流人口の拡大、地域経済波及に関する研究」

平成 24～25 年度には「第 4 次いわき市障がい者計画策定委託業務」を受託し、市内アンケート調査およびその結果を踏まえた計画策定を行った。

平成 25 年度には「オールスターゲーム・ふくしま復興祭開催による地域への波及効果に関する研究委託」事業を実施した。

④他大学との連携

平成 23(2011)年度から、いわき明星大学との連携による「福島県いわき地域の大学連携による震災復興プロジェクト（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）」を実施し、被災地の情報発信による観光まちづくり事業と被災障がい者自立支援推進事業を進めている。

福島県内の大学と単位互換協定を結んでおり、その受け入れについては「東日本国際大学特別聴講学生規程」として明文化されている。なお、本学の学生が他大学の講義を受講した場合にも互換協定等に沿って処遇されるが、今のところ実績は無い。

平成 21(2009)年度からは、福島大学が主宰する“アカデミア・コンソーシアムふくしま”に参画し積極的な対応を行っている。

■校地・校舎等 学生の教育研究活動の環境

所在地	〒970-8567 福島県いわき市平鎌田字寿金沢 37
主な交通手段	常磐線いわき駅下車
キャンパス概要	【キャンパスマップ・アクセスマップ】 http://www.shk-ac.jp/info_access_access_map.html

<p>運動施設の概要</p>	<p>【機能・規模】</p> <p>○運動場 本学には、キャンパスに付設して第一運動場(鎌田石名坂)、弓道場、柔道場がある。また近郊に第二運動場(小川町大坂)と室内野球練習場が整備されている。</p> <p>○体育館 本学における体育館は、体育の授業のほか学内行事や式典等にも利用されている。これらの運動場施設の規模と用途は以下の通り</p> <table border="1" data-bbox="475 555 1406 936"> <thead> <tr> <th>施設名称</th> <th>用途</th> <th>面積 m²</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一運動場</td> <td>一般運動場/ 駐車場</td> <td>6,127.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第二運動場</td> <td>野球場・サッカー場</td> <td>53,972.57</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鬘道館</td> <td>柔道場</td> <td>836.4</td> <td>330 畳</td> </tr> <tr> <td>屋内野球練習場</td> <td>野球</td> <td>1,851.08</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弓道場・弓道練習場</td> <td>弓道</td> <td>97.78</td> <td></td> </tr> <tr> <td>体育館</td> <td>授業</td> <td>1,694.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施設名称	用途	面積 m ²	備考	第一運動場	一般運動場/ 駐車場	6,127.5		第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57		鬘道館	柔道場	836.4	330 畳	屋内野球練習場	野球	1,851.08		弓道場・弓道練習場	弓道	97.78		体育館	授業	1,694.4	
施設名称	用途	面積 m ²	備考																										
第一運動場	一般運動場/ 駐車場	6,127.5																											
第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57																											
鬘道館	柔道場	836.4	330 畳																										
屋内野球練習場	野球	1,851.08																											
弓道場・弓道練習場	弓道	97.78																											
体育館	授業	1,694.4																											
<p>課外活動の状況</p>	<p>本学では、課外活動を通じてた人間力あるいは社会人としての基礎力育成のため、学生が目的を持って自己実現をはかることについて、さまざまな支援を行っている。学生の課外活動には、学友会、運動部、サークル活動等がある。</p> <p>学友会は、学生自身による課外活動の主体となる学生の自治組織であり、活動費は学友会費により賄われている。主要事業として、①鎌山祭(学園祭)の実施(いわき短期大学と共催)、②いわき踊り(いわき市内)への参加、③卒業式に連動した謝恩会の実施などが上げられる。</p> <p>学友会組織は、会長、副会長、会計等の役員と中心として、学生参加率の向上を図るため1～3年次ゼミと下記の強化指定部との連絡を密にしている。学生部長は学友会の顧問として指導を行っている。</p> <p>課外活動としての運動部は、①硬式野球部、②柔道部、③弓道部、④バドミントン部、⑤卓球部、⑥サッカー部、⑦吹奏楽部の7部が強化指定部として法人より指定され、高い実績をあげている。これらの強化指定部には、法人指定強化部に対する特別補助取扱要領に基づいて、技術力向上のための財政的支援を行っている。</p>																												

■授業料・入学料その他の大学が徴収する費用

①学納金

http://www.shk-ac.jp/admission_fee_fee.html

②奨学金

種類	要件	申込方法
東日本国際大学奨学金	本学に在籍する学生で、学業成績、部活動成績、人物ともに優れた者で経済的理由により修学が困難な者に学資を給付する。	所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。

福島県奨学金	大学に在学している福島県出身の学生で、品行が正しく、学術に優れ能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者に奨学資金を貸与する。	所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
あしなが奨学金	保護者等が病気や災害（交通事故を除く）もしくは自死などで死亡、またはそれらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている者で大学に在学している学生に学資を貸与する。	所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
ロータリー米山記念奨学金	勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生で、受給年度に、学部課程3・4年目に在籍する留学生。	所定の願書に記載の上、必要書類を添えて申し込む。
平和中島財団奨学金	日本の大学に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ経済的理由により修学に困難がある者。	在籍する大学からの推薦により、書類選考する。
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費	日本の大学に在籍する私費外国人留学生で学業、人物ともに優れ経済的理由により修学に困難がある者に給付。	大学の長を通じて、機構理事長に推薦する。
日本学生支援機構	特に優れた者で、経済的理由により修学が困難な学生に学資を貸与。	大学の長を通じて機構理事長に推薦する。